

『絆』の支援と放射能問題とは

分けて考えよう！

3月15日、東京都下・M市の「市議会建設常任委員会」を傍聴しました。
子育て中の若い母親世代及びお孫さんの内部被曝を心配する祖父母世代とから成る市民グループが、「災害廃棄物の広域処理に関して住民の健康不安を解消するための対策を求める請願」を提出する、と聞いたからです。

グループは福島原発事故発生以来、M市内で地道な放射線測定と学習会を重ねてきました。その中で、政府の「がれき広域処理」方針に危惧を抱き、前記の請願を出したのです。グループ代表2名が請願の提出理由を述べました。
①「広域処理」は放射性物質を日本全土に拡大させ、住民を被曝の連鎖に晒す不安がある。②被災地の復興支援は議会で十分に議論し、国民の合意を得てから進めるべきであり、議論を経ずに政府から一方的に広域処理が始められていることには問題がある。③国・都・市は一体となって安全性の統一基準を設け、市民公開の実証実験・住民説明会など、責任ある対応をして欲しい。…との要旨。

これに対して委員会側は、「国民世論は被災地支援の絆で高まっている。広域処理はその一環である。」との見解。

この日、請願は受理されず、継続審議となりました。M市は「初めに広域処理ありき」で進んでおり、住民の不安に耳を傾ける姿勢（市政）ではないことが分かります。残念ながら、私達は国政の中にもこの姿勢を見ます。

環境省大臣の細野豪志さんは、「国は放射能の安全基準をしっかりと守る」と言います。その細野さんはまた、特命担当大臣（原子力行政）を兼務し、原発行政進展のために事故処理を急いでいます。一人二役ですが、住民の安全より国策を先行させているのです。「絆」という言葉に便乗して国民の感情に訴え、事故の本質を隠しています。放射能問題は飽くまで科学的客観的に対処すべきです。感情論を持ちこむのは、危険なことだと思います。

小出裕章さん（京都大学原子炉実験所）講演会

① 4月21日（土）・13:15～16:15（開場13:00）

会場：東京・日本教育会館3F（地下鉄・神保町駅A1出口より約3分）／入場料：700円
予約：FAX: 03-3238-0797 / 042-371-3062 E-mail: nonukes@tanpoposya.net
主催：たんぼぼ舎・東京都高等学校教職員組合他

② 4月22日（日）14:00～16:00（開場・13:00）

会場：東京・青山学院大学講堂／参加費：大人1,000円・18歳以下500円
予約：FAX: 03-3407-9568 / E-mail: morningstudy@crayonhouse.co.jp
主催：クレヨンハウス（03-3407-9568）

★ 広河隆一写真展『チェルノブイリと福島（東京）』

日時：4月16日（月）～22日（日）9:00～21:00（最終日は19:00終了）

場所：東京・明治大学駿河台校舎アカデミーコモン1階・展示コーナー（入場無料）

※連日9時～10時・19時～21時・及び4/22（日）の9時～17時は、無人展示となります。

問い合わせ：cherno1986@tokyo.email.ne.jp / Tel. 03-5228-2680

主催：現代史研究会、チェルノブイリ子ども基金、未来の福島こども基金

★ チェルノブイリ26周年 救援講演会『チェルノブイリと福島（東京）』

日時：4月22日（日）・（13:00開場）13:30開演（16:30終演）

場所：明治大学リバティタワー1階 リバティホール（1013教室）

出演：広河隆一（フォトジャーナリスト）／ポホモワ・ワレンチーナ（「困難の中の子どもたちへ希望を」代表）／ゼレンケヴィチ・オリガ（ポホモワさんの娘）／藤波心（タレント）／武藤類子（ハイドロアクション福島原発40年）／黒部信一（小児科医）の各氏／資料代：1,000円

予約・問い合わせ：cherno1986@tokyo.email.ne.jp / Tel. 03-5228-2680

主催：現代史研究会、チェルノブイリ子ども基金、未来の福島こども基金

【後記】私達は、放射能の心配がない安全安心な生活環境を取り戻したいと願う者のグループです。

毎月1・11・21日にこのニュースをお届けします。Faxにて集会情報のご投稿をお願いします。